



丸の内だより

内務技術官の大異動

内務省では久しく沈滞せる土木技術官界の空気を刷新し同時に土木行政の一新を期する爲多年懸案の土木技術官の大異動を斷行四月十一日發表した。

内務技監 中川吉造
 土木局第一技術課長 前川貫一
 東京土木出張所長 眞田秀吉
 大阪土木出張所長 坂本助太郎
 仙臺土木出張所長 坂本丹治
 (以上勅任)
 横濱土木出張所員 楠本幹夫
 (奏任)

依願免本官(各通)

内務技師(新潟土木出張所長) 青山士
 任内務技監

内務技師(土木局) 谷口三郎
 命土木局第一技術課長

内務技師(大阪土木出張所員) 山内喜之助
 命神戸土木出張所長

内務技師(仙臺土木出張所員) 伊藤百世
 命新潟土木出張所長

内務技師(土木局) 鈴木雅次
 命土木局第二技術課長

内務技師(名古屋土木出張所長) 辰馬鎌藏
 命東京土木出張所長

内務技師(神戸土木出張所長) 高西敬義
 命大阪土木出張所長

内務技師(下關土木出張所長) 金古久次
 命名古屋土木出張所長

内務技師(土木局第二技術課長) 福田次吉
 命仙臺土木出張所長

内務技師(土木局) 牧野雅樂之丞
 命下關土木出張所長

内務技師(土木局) 三浦七郎 土木學會の山口貯水池見學會

五月十二日の午後東京驛前から百三十餘名の土木學會員が市電のバス九臺を列べて、新緑の武蔵野にドライブした。山口貯水池見學會の一行である。

昨年の熱海ドライブに比し、全行路が舗装されてゐるので砂塵が少く、動搖も少い、會長、前會長なども自家用に乗らないで、會員車に同車した。

參會者に内務省關係者の少つたのは恰度土木局幹部技師の大異動の最中であつたからと思はれる。何時も見える那波博士も見えず、特に見學會に常に異彩を放つてゐた那須章彌氏が今年から永久に見られぬ事は特に淋しい事であつた。

車中では水道局の龜田技師其他の多數の局員が案内係として斡旋の務をとり、會員談笑の間に一時間餘で山口貯水池に着いた。工事中は度々視察した會員にも一層の思い出で『あゝこんなに立派になつたか』と一同廣い展望に眼をみはる。村山貯水池と今度竣工した山口貯水池と相相入で、其所は多磨湖と稱され、周圍の調和も自然的だ。

池畔の水道局の出張所も、文化式の湖畔の小ホテルと云つた感じ、其所で一同休憩し、茶菓の饗應をうけた。席上で原水道局長の歓迎の辭があり、次いで小野擴張課長の山口貯水池工事に關する講話があつた。工事の沿革から、先輩の實談、附近の史蹟に至るまで小野氏の輕快にして要を得た談に一同非常な興味と參考を得た。

小野氏の講話後、會員を代表して久保田會長立つて一場の謝辭を述べ、次に村山及山口貯水池工事の現場主任として前後二十年間アースダムに没頭せる菅原技師の案内によりモーターボートにて湖上を一週し、尙ほ副業としての鱒の人工養殖場を視察し、附近の林間散歩道をドライブして東京に歸つたのは午後六時頃であつた。カットは當日山口貯水池に於ける一行で正面煙草を持有的米元副會長、その右原東京市水道局長、右端は名井九介博士の後姿。